



菊池 巳喜男 議員
(市民クラブ)
一問一答方式

その他の質問

- 農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約について

で・くらす遠野市民制度による 交流人口の拡大と 移住・定住の推進状況について

問 「で・くらす遠野」窓口の一元化による現状と推進状況はどうなっているのか。

答 遠野市の移住・定住支援として、空き家の有効活用及び移住者の定住を促進するため、空き家のリフォーム工事と家財道具の整理に要する費用に対し助成する「遠野市空き家リフォーム事業助成金」の制度がある。また、移住者へのアフターケアとして移住者交流会を開催している。

六次産業化の進捗状況について

問 六次産業化を推進している中で、状況と実績はどうなっているのか。

活用した新商品の開発も行っており、金融支援に関しては、東北銀行が「チャレンジする六次産業応援資金」を無利子、無担保、無保証の金融商品として設備投資や運転資金として商品化している。先日は、遠野ホップ収穫祭でも市内の事業者が出店し、新商品の販売にも手応えを感じたところである。

化推進プランを進めているが、連携はどうなっているのか。

答 遠野市の協議会設置の戦略を県では高く評価している。この設置と県の推進プランが同時に策定され、県の県南広域振興局の支援を受け、遠野農林センターが協議会の構成員として参加、情報共有を図り連携している。

問 岩手県でも六次産業

答 平成27年度「で・くらす遠野」を利用して移住した方は、13世帯21名であり、同年度までの移住世帯の累計は目標値50世帯に対し、74世帯が移住し目標値を上回っている現状である。今年度は8月末までに5世帯10名が移住している。



交流人口拡大のイベントとしても盛り上がる「遠野ホップ収穫祭」。ホップに魅了された移住者も。

第三セクターの経営改革について

問 今回「第三セクター等の経営体強化」について示されたが、5年前に遠野市進捗まちづくり検証委員会からの提言を受けて策定した「第三セクター等経営改革」に基づく評価・検証等が行われてきたか。また、その結果が今回の施策に生かされているか。

始めた矢先に、東日本大震災の発災により状況が一変し、計画的な改革が進められない状況となった。しかし、懸命に取り組み今回の施策に反映させた。

問 今回の経営体強化策はインバウンド対応(社内向けの改革)のみにとどまっていないか。

今回の経営体強化策はインバウンド対応(社内向けの改革)のみにとどまっていないか。アウトバンド(外部への営業戦略や市場開拓、接客対応)にも注力する必要があるのでは。

答 外部専門家の配置により、先に進化まちづくり検証委員会から提言を受けた内容を再度分析しながら、インバウンドとアウトバンド策を組み立てて取り組む。

問 当市の第三セクターは行政主導の経営体質から脱皮できないという。事業内容と目的、使命を再度明確にさせ、権限と責任を与えて自立した事業運営ができる環境づくりが必要でないか。

答 提言内容のとおり最善の努力をする。

問 世界中で大人気のスマホ・ゲームについて、遠野のキャラクターとして河童や座敷わらし、天狗等を出現させ、ゲームをした宿泊客には特産品をプレゼントする等の取り組みはいか

か。観光客や交流人口の増加、地域おこしに繋がるのではないかと。一方で、歩きスマホや、ながら運転、私有地への侵入など賛否両論もあるが、当市の対応スタンスは。

答 遠野ならではの魅力と特徴をうまく生かした発信は観光客と交流人口増加に繋がる。一方で、社会問題化している面もあることから情報収集を行い、一時のブームに乗ることなく冷静に考え判断しなければならぬと考える。



佐々木 大三郎 議員
(市民クラブ)
一問一答方式



風の丘「創業感謝祭の餅まき」

スマートフォン向けゲームの活用について